

番組審議会

第658回

2022年3月22日

■ 審議会の構成

委員総数	10名
委員長	音 好 宏
副委員長	中 江 有 里
委 員	江 澤 佐知子 尾 縣 貢
	萱 野 稔 人 喜田村 洋 一
	佐 藤 智 恵 長 嶋 有
	藤 原 帰 一 水無田 気 流

TBSテレビ	佐々木 社 長
	渡 辺 常務取締役
	伊佐野 常務取締役
	岩 田 取締役
	瀬戸口 編成局長
	竹 内 報道局長
	山 岡 報道局ニュース部長
	大 橋 報道局プロデューサー
	中 田 編成考査局長
	村 田 編成考査局視聴者サービス部長
	天 野 番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

(1) 「NスタSP 東日本大震災11年 つなぐ、つながる」

3月11日(金) 13:55～15:49放送

(2) その他

2. 報告事項

(1) 2022年度上期の編成方針

3. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声について

(2) 次回審議会の議題及び日程について

【委員の主な意見】

□嘆きや不安より、未来に向かって私たちがどうするのか、何を考えなければならぬのか、というメッセージ性を強く感じた。同時に、ポジティブさを強調する余地、まだ向き合えない人を置いていかない努力も続けて欲しい。

□三陸に移住した若者たちが、非常に魅力的だった。できればその地域にどんな魅力があって来たのか、もう少し情報を添えて欲しかった。

□感動的になりすぎず、子どもが大人になる時間の経過を描くなど、距離感・時間感を、とてもよく考えて作られた番組だった。

□一緒に視聴した子どもから「つなぐ、つながる」の意味を問われ、震災の経験を、次世代に継承しなければいけない重要性を強く感じた。

□今年の震災特番は、妙にもらい泣きした。過剰な演出で泣かされたのではなく、制作側のフラットに伝えようとする手つきが、ストレートに伝わった番組だった。

□3月11日の生放送なので、途中、黙祷が入るのはシンプルなことだが、すごく大事なことだ。各地の黙祷をカメラがつなぐのも、立派なテレビの役割だと思う。

□井上キャスターの「想定を広げることはテレビの役割」というコメントは、震災時のテレビの重要性を示したものだだった。

□持続可能な社会を復興の中で築き上げていくなど、個別の事例を個別に終わらせることなく、普遍的に位置付ける問題設定は、非常に意義深いものだだった。

□被災地でSDGsを実現しようということは色々なところで言われているが、なぜ被災地がSDGsの重荷を背負わなければいけないのか。日常を取り戻すだけで大変なのに、最先端の取り組みも担わされるのは、期待過剰ではないか。

□被災者とそのコミュニティを、点でなく面で伝えた。被災地の方々が周囲の人たち・全国の人たちとどうつながって、そのつながりが互いの人生にどう影響を与えたのか、喪失から再生への過程を非常に丁寧に描いていた。

□民放キー局とNHKが、防災プロジェクトを発足させたのはとても良い試みだ。TBSが主導して、被災時のベストプラクティスを集めて行動指針にまとめるなど、全局的な取り組みがあれば、社会的意義がさらに増すのではないか。

□他局で震災関連番組を作っていたのは圧倒的にNHKだが、TBSは「つなぐ、つながる」という統一テーマにより、いわば報道局でパッケージ化することで、非常に統一感のある放送ができた。

□TBSは東日本大震災を忘れないことに力を入れてきた。第二次世界大戦を忘れない報道番組もずっと作り続けてきた。SNSでの冷笑・悪罵に振り回されることなく、これからも伝えるべきことを伝え続ける放送局であって欲しい。

* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。(TBSテレビ番組審議会事務局)